

被服が対人認知に及ぼす影響 (第3報)

—— ポーズ ——

石原久代

Effect of Clothing on Personal Perception (Ⅲ)

— Pose —

Hisayo ISHIHARA

緒 言

ファッションに対する関心は今日、若い世代を中心にかなり高く、ファッション雑誌も性別・年齢を問わず非常に多く出版されている。しかし、これらの雑誌に掲載されている服装を、読者がそのまま身につけたとしても雑誌と全く同じイメージが得られるとは限らない。勿論これらのずれは着用者の個性の違いによるところが大きいといえるが、その他にファッション雑誌においては、服装のイメージを引き立てるために必ずポーズがとられており、これらポーズの影響も大きいと考えられる。

このポーズの影響については、被服心理の研究分野において、雑誌の切り抜き等を試料として使用し、研究されていることが多々あるため、これまでも何度か話題にはあがったが、研究として具体的に取り上げられていないのが現状である。

一方、筆者はこれまで「被服が対人認知に及ぼす要因」として、着装者、服装色および形態について取り上げ¹⁾報告を行ってきた。しかし、これらの研究においては、いずれもポーズは直立のまま扱ってきており、対人認知がいつも直立にて行われるばかりでないことを考えれば、これまで解明してきた諸要因にポーズの影響を加えることは非常に有意義であると思われる。

そこで、本研究において個性の異なる2名の被験者に同じ服装を着用させ、種々のポーズをとることにより、対人認知として与えるイメージがどのように変化するかについて測定し、服装イメージに關与する要因について検討した。

方 法

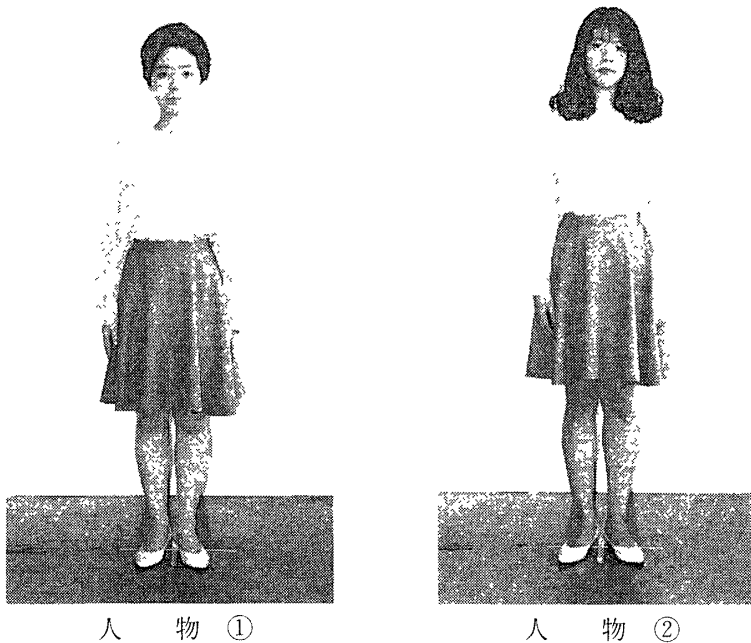
1. 試 料

服種としては、前報の対人認知における形態の影響についての実験²⁾において、トップの形態よりボトムsの形態の違いがイメージに大きく關与するという結果が得られていることから、トップはラウンドネックのブラウスに固定し、ボトムは先の結果において最も差が大きかったミニ丈のフレアスカートとパンツを選出した。なお、ブラウスはポリエステルデシン、スカートおよびパンツはウールジョーゼットで体型に合わせて作成した。

着用者は、個性差を考慮して図1に示したイメージの異なる2名とした。また、ポーズについてはSOEN (文化出版局)、anan (平凡出版)、non-no (集英社)、JJ (光文社) などのファ

ファッション雑誌の中で出現頻度が高いポーズの中からイメージの異なるものとして、図2に示したようなA. 直立姿勢、B. 右手を頬に、左手を腰に置いたポーズ、C. 両手を後ろで結んだポーズ、D. 両手を左右に広げたポーズ、E. 右手を下げ、左手を腰に置いたポーズの5種を選出した。

これらのポーズを先の2名の人物にパンツおよびフレアスカートを着用した上でとってもらい、写真撮影を行った。なお、着装にあたっては両者とも肌色のストッキング、靴は白色の中ヒールパンプスを着用させた。

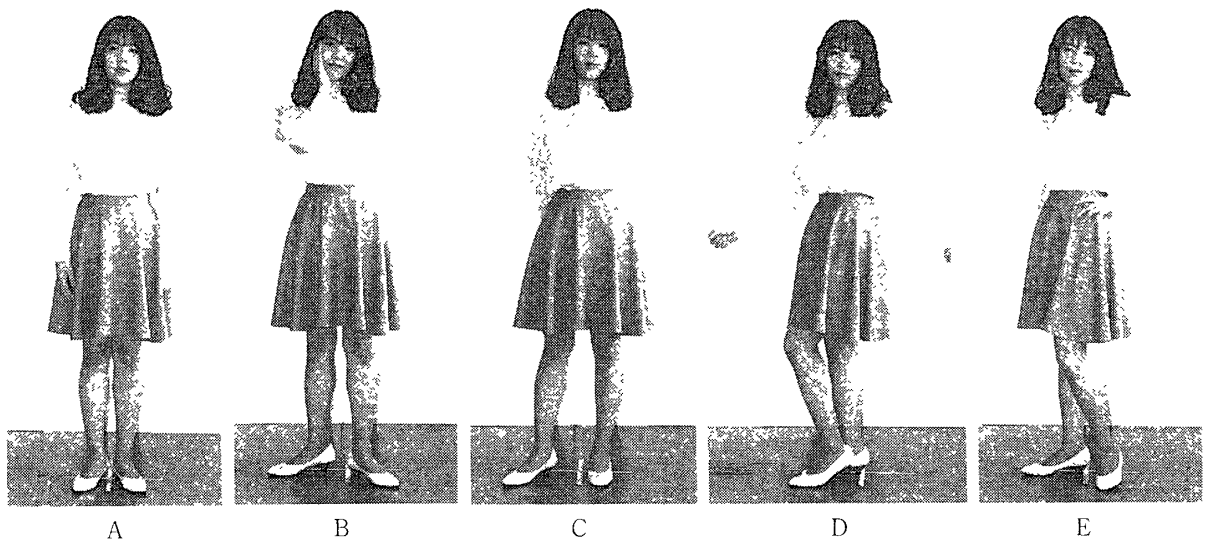


人物 ①

人物 ②

図1 着 装 者

これをx68000 4D-box (JUN仕様)のグラフィック専用コンピュータに取り込み、ブラウスとスカートの色彩を表1に示したような5種類の色彩に変換した。変換色としては色相・明度・彩度に大きな偏りがないようにa. トップに明るい赤 (5RP6/10)、ボトムに明るい青 (10B6/10)を用いた対照色相の高彩度色の組み合わせ、b. トップにくすんだ赤 (5RP7/4)、ボトムにくすんだ青 (10B6/4)の同じく対照色相の低彩度色の組み合わせ、c. トップにあざやかな黄 (5Y8/14)、ボトムにあざやかな黄赤 (5YR7/14)



A

B

C

D

E

図2 ポ ー ズ

表1 試料

試料	人物	ポーズ	色 彩		アイテム	試料	人物	ポーズ	色 彩		アイテム			
			トップ	ボトム					トップ	ボトム				
1	①	A	a	5RP6/10	10B6/10	スカート	51	A	a	5RP6/10	10B6/10	スカート		
2					パンツ	52								
3					スカート	53				b	5RP7/4	10B6/4	スカート	
4					パンツ	54							パンツ	
5					スカート	55				c	5Y8/14	5YR7/14	スカート	
6					パンツ	56							パンツ	
7					スカート	57				d	5Y8/6	5Y3/4	スカート	
8					パンツ	58							パンツ	
9					スカート	59				e	10B8/3	10B2/4	スカート	
10					パンツ	60							パンツ	
11		B	a	5RP6/10	10B6/10	スカート	61	B	a	5RP6/10	10B6/10	スカート		
12					パンツ	62						パンツ		
13				b	5RP7/4	10B6/4	スカート		63		b	5RP7/4	10B6/4	スカート
14					パンツ	64							パンツ	
15				c	5Y8/14	5YR7/14	スカート		65		c	5Y8/14	5YR7/14	スカート
16					パンツ	66							パンツ	
17				d	5Y8/6	5Y3/4	スカート		67		d	5Y8/6	5Y3/4	スカート
18					パンツ	68							パンツ	
19				e	10B8/3	10B2/4	スカート		69		e	10B8/3	10B2/4	スカート
20					パンツ	70							パンツ	
21		C	a	5RP6/10	10B6/10	スカート	71	C	a	5RP6/10	10B6/10	スカート		
22					パンツ	72						パンツ		
23				b	5RP7/4	10B6/4	スカート		73		b	5RP7/4	10B6/4	スカート
24					パンツ	74							パンツ	
25				c	5Y8/14	5YR7/14	スカート		75		c	5Y8/14	5YR7/14	スカート
26					パンツ	76							パンツ	
27				d	5Y8/6	5Y3/4	スカート		77		d	5Y8/6	5Y3/4	スカート
28					パンツ	78							パンツ	
29				e	10B8/3	10B2/4	スカート		79		e	10B8/3	10B2/4	スカート
30					パンツ	80							パンツ	
31		D	a	5RP6/10	10B6/10	スカート	81	D	a	5RP6/10	10B6/10	スカート		
32					パンツ	82						パンツ		
33				b	5RP7/4	10B6/4	スカート		83		b	5RP7/4	10B6/4	スカート
34					パンツ	84							パンツ	
35				c	5Y8/14	5YR7/14	スカート		85		c	5Y8/14	5YR7/14	スカート
36					パンツ	86							パンツ	
37				d	5Y8/6	5Y3/4	スカート		87		d	5Y8/6	5Y3/4	スカート
38					パンツ	88							パンツ	
39				e	10B8/3	10B2/4	スカート		89		e	10B8/3	10B2/4	スカート
40					パンツ	90							パンツ	
41		E	a	5RP6/10	10B6/10	スカート	91	E	a	5RP6/10	10B6/10	スカート		
42					パンツ	92						パンツ		
43				b	5RP7/4	10B6/4	スカート		93		b	5RP7/4	10B6/4	スカート
44					パンツ	94							パンツ	
45				c	5Y8/14	5YR7/14	スカート		95		c	5Y8/14	5YR7/14	スカート
46					パンツ	96							パンツ	
47				d	5Y8/6	5Y3/4	スカート		97		d	5Y8/6	5Y3/4	スカート
48					パンツ	98							パンツ	
49				e	10B8/3	10B2/4	スカート		99		e	10B8/3	10B2/4	スカート
50					パンツ	100							パンツ	

の類似色相の高彩度色の組み合わせ, d. くすんだ黄 (5Y8/6) と暗い黄 (5Y3/4) の同系色相の低彩度の組み合わせ, e. うすい青 (10B8/3) と暗い青 (10B2/4) の同じく同系色相の低彩度の組み合わせの5種類の配色に各着装写真を色変換し, カラースライドに仕上げた.

2. 官能検査

検査は, 作成した100種のカラースライドをプロジェクターにより, ほぼ等身大の大きさにスクリーン上に投影し, 本学学生 (20~22歳) 100名を検査者として, SD法³⁾による5段階評定の官能検査を行った. 両極性評定尺度は前報⁴⁾と同様の「やさしいーきつい」「積極的なー消極的な」「陽気なー陰気な」「男性的なー女性的な」「上品なー下品な」「大人っぽいー子供っぽい」「奇抜なー平凡な」「派手なー地味な」「おとなしいー荒々しい」「好感がもてるー好感がもてない」の10形容詞対とした. また, 検査にあたり5段階の各段階には, 程度量副詞は提示せず, 数値のみを付与して評価させ⁵⁾, さらに提示順位は順序効果がおきないように着装者別にランダムとした. なお, 検査実施期間は1993年1月~2月であった.

得られた結果に5~1の数値を与え, 100名の平均値を平均官能量として算出し, さらに主因子解法により因子分析を行い, 形容詞対の分類を行うとともに, 数量化Ⅱ類により人物差, ポーズ, 色彩, ボトムの形態等がどの程度着装イメージに關与するかについて検討を行った.

結果および考察

1. 官能検査結果

得られた平均官能量をスカートおよびパンツ別に図3に示した. まず, aのトップに明るい赤, ボトムに明るい青を用いた対照色相の高彩度色の組み合わせにおいては, ボトムがスカート

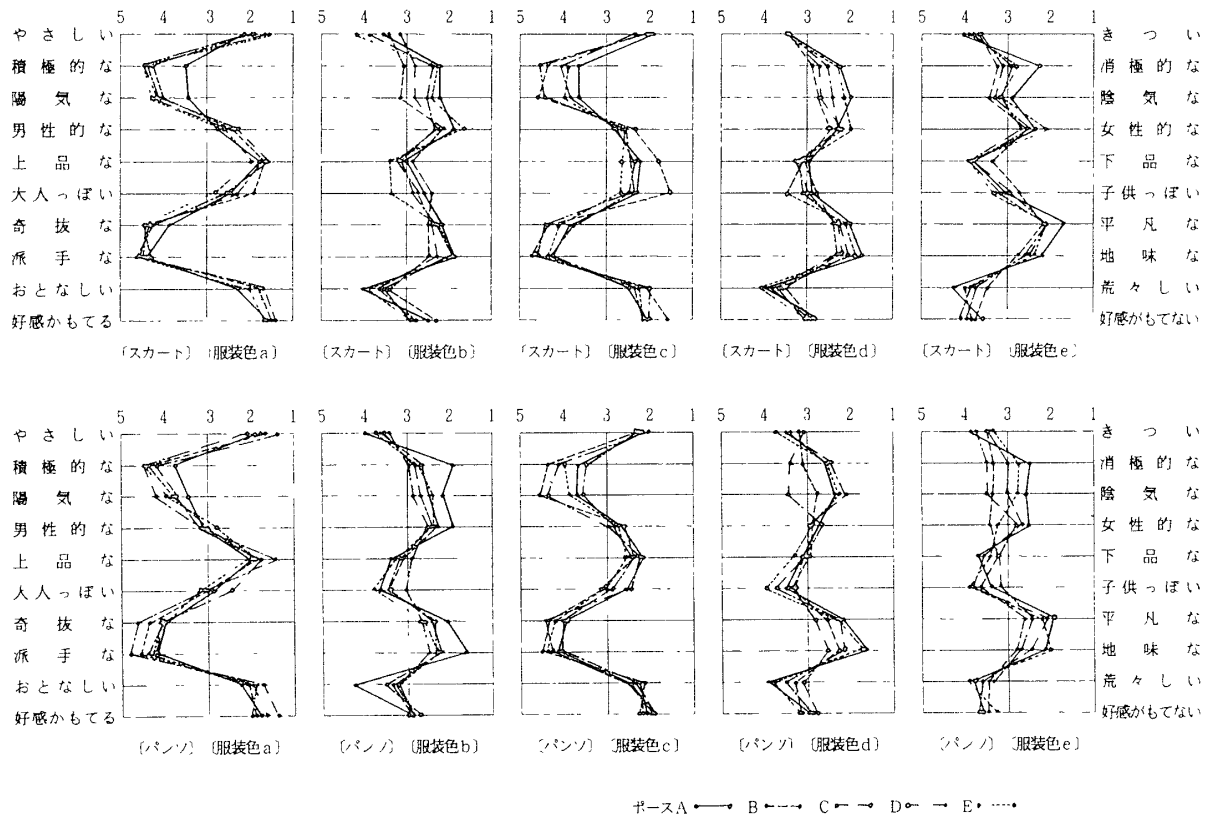


図3 平均官能量

トの場合もパンツの場合もかなり近い傾向を示し、ポーズAの直立が他のポーズに比べ、「積極的な-消極的な」においてやや消極的な、「陽気な-陰気な」においてやや陰気なに偏っているが、その他のポーズはほとんど変わらず、「きつい」「積極的な」「陽気な」「下品な」「奇抜な」「派手な」「荒々しい」「好感がもてない」と評価されている。

また、bのトップにくすんだ赤、ボトムにくすんだ青を配した対照色相の低彩度色の組み合わせについては、先に示したaの高彩度の組み合わせとは異なり、ボトムがスカートの場合もパンツの場合もポーズによってかなり評価に差があるといえる。特に差の大きな形容詞対としてボトムがスカートの場合「やさしい-きつい」「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「大人っぽい-子供っぽい」、ボトムがパンツの場合は「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「奇抜な-平凡な」「派手な-地味な」「おとなしい-荒々しい」などがあげられる。

cのトップにあざやかな黄、ボトムにあざやかな黄赤の類似色相の高彩度色の組み合わせについては、全体的にはaの明るい赤と明るい青の組み合わせに近似しているといえる。しかし、スカート着用の場合「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「上品な-下品な」「大人っぽい-子供っぽい」で評価に比較的大きな差が認められているが、パンツでは「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」の2形容詞対にのみ差が認められ、スカートの方がポーズによる差が広がる傾向がうかがえる。

次に、dのトップにくすんだ黄、ボトムに暗い黄の同系色相の低彩度色の組み合わせにおいては、cのあざやかな黄とあざやかな黄赤に比べ、全体的に各イメージへの影響量は小さく、ポーズによるバラツキが認められ、特にパンツの場合は「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「奇抜な-平凡な」「派手な-地味な」において差が大きいといえる。

eのトップにうすい青、ボトムに暗い青の同系色相の低彩度色の組み合わせにおいてはボトムがスカートの場合は、Aの直立において、「消極的な」「平凡な」「地味な」で若干のイメージの差が認められるが、その他のポーズはかなり近い値を示している。しかし、パンツの場合のイメージは異なり、「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「男性的な-女性的な」「奇抜な-平凡な」などで大きな差が認められている。

なお、全体としては今回用いた10形容詞対の中で「やさしい-きつい」「男性的な-女性的な」「好感がもてる-好感がもてない」については、ポーズによる差はスカート、パンツともにそれほど大きくないが、その他の形容詞対については両者にかなり差が認められている。また、ボトムの形態の面からも「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」においてスカートよりもパンツ着用の方がポーズによる差が大きく、逆に「大人っぽい-子供っぽい」においてはスカートの方が差が大きいといえる。

2. 因子分析結果

用いた10形容詞対を主因子解法により因子分析した結果を表2に示した。固有値1.0以上で第2因子まで抽出され、その累積寄与率は90.1%であった。

第1・第2因子において、第1因子の方に高い負荷量を示したのは「大人っぽい-子供っぽい」(0.927)、「上品な-下品な」(0.742)、「好感がもてる-好感がもてない」(0.736)、「陽気な-陰気な」(-0.622)などの形容詞対であり、第2因子には「男性的な-女性的な」(0.766)、「奇抜な-平凡な」(0.739)、「おとなしい-荒々しい」(-0.738)、「積極的な-消極的な」(0.735)、「派手な-地味な」(0.709)「きつい-やさしい」(-0.705)が高い負荷量を示している。しかし、第1因子についてはこれら4形容詞対以外にも「男性的な-女性的な」を除く9形容詞

対いずれも0.50以上の高い負荷量を示しており、逆に第2因子についても「大人っぽい-子供っぽい」以外の形容詞対が高い負荷量を示していることから、これらの2形容詞対がイメージの分類に大きく関与しているといえ、第1因子は大人っぽさの因子、第2因子は性別をイメージする因子と考えることができる。

3. 着装評価に関与する要因の検討

各イメージに関わる要因を検討するために、人物、ポーズ、服装色、ボトムの状態をアイテムとして数量化Ⅱ類により分析した結果を表3に示した。まず「やさしい-きつい」については服装色の偏相関係数が1.0を示しており、その中でaの明るい赤と明るい青、およびcのあざやかな黄とあざやかな黄赤の組み合わせがそのウェイトにおいてマイナスの大きな値を示していることから「きつい」に大きく寄与し、逆にbおよびdのくすんだ色彩の組み合わせとうすい青と暗い青の組み合わせのeが「やさしい」に大きく寄与しているといえる。なお、その他のアイテムは偏相関係数が0.0を示しており、全く影響しないという結果が得られている。

「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「上品な-下品な」についても、服装色の偏相関係数が他のアイテムに比べ最も高い値を示しているが、ポーズの影響も認められ、いずれも人物やボトムの偏相関係数より高い値が得られている。なお、そのレンジから「積極的な」にはBの右手を頬に左手を腰に置いたポーズが、逆に「消極的な」にはAの直立姿勢が大きく寄与している。また、「陽気な」についてはDの両手を左右に広げたポーズ、およびBの右手を頬に左手を腰に置いたポーズがやや高い値を示しているが、これらのポーズは「積極的な」への影響量に比べると低いといえる。逆に、「陰気な」については、「消極的な」と同様Aの直立姿勢が大きく寄与している。なお、「上品な-下品な」のレンジの構成は先の2形容詞対とは異なり、「上品な」にはEの右手を下げ左手を腰に置いたポーズが、「下品な」にはBの右手を頬に左手を腰に置いたポーズが寄与しているといえる。

「男性的な-女性的な」については、服装色の偏相関係数が0.540と最も高い値を示しているが、ボトムも0.525と高い値を示し、パンツスタイルが「男性的な」、フレアスカートが「女性的な」と評価されている。なお、人物の影響については服装色やボトムの形態の影響に比べればそれ程高くないが、10形容詞対の中では最も影響しており、ショートカットの人物①を「男性的な」と評価している。

「大人っぽい-子供っぽい」についても服装色の偏相関係数が最も大きいですが、ボトムの形態

表2 因子分析結果

形容詞対	FACTOR 1	FACTOR 2	COMMUNALITY
大人っぽい-子供っぽい	0.927	-0.007	0.859
上品な-下品な	0.742	-0.578	0.884
好感もてる-好感もてない	0.736	-0.511	0.803
陽気な-陰気な	-0.622	0.581	0.726
男性的な-女性的な	-0.008	0.766	0.587
奇抜な-平凡な	-0.657	0.739	0.977
おとなしい-荒々しい	0.670	-0.738	0.994
積極的な-消極的な	-0.578	0.735	0.875
派手な-地味な	-0.676	0.709	0.959
やさしい-きつい	-0.687	-0.705	0.969
寄与率	79.8	10.4	90.1

表3 数量化Ⅱ類におけるアイテム、カテゴリー別ウエイト、レンジ、偏相関係数

アイテム カテゴリー		形容詞対		積極的な		陽気な		男性的な		上品な	
		やさしい	きつい	積極的	消極的	陽気	陰気	男性	女性	上品	下品
		ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関
人物	①	0.000	0.000	-0.157	0.314	0.024	0.048	0.293	0.586	0.098	0.196
	②	0.000	0.000	0.157	0.196	-0.024	0.040	-0.293	0.264	-0.098	0.138
ポーズ	A	0.000	0.000	-0.445	1.046	-0.329	0.588	-0.183	0.366	-0.024	0.737
	B	0.000		0.601		0.258		0.183		-0.393	
	C	0.000		-0.183		0.024		0.000		0.098	
	D	0.000		0.209		0.259		0.000		-0.024	
	E	0.000	0.000	-0.183	0.424	-0.212	0.381	0.000	0.108	0.344	0.320
服装色	a	-1.225	2.041	0.994	2.223	0.964	2.234	1.097	1.914	1.129	2.332
	b	0.816		-1.229		-1.270		-0.731		0.466	
	c	-1.225		0.994		0.964		1.183		-1.129	
	d	0.816		-0.836		-1.035		-0.731		0.589	
	e	0.816	1.000	0.078	0.760	0.376	0.857	1.183	0.540	1.203	0.805
ボトム	スカート	0.000	0.000	-0.052	0.104	0.071	0.142	-0.658	1.316	-0.147	0.294
	パンツ	0.000	0.000	0.052	0.067	-0.071	0.120	0.658	0.525	0.147	0.205
相 関 比		1.000		0.621		0.747		0.467		0.743	
相 関 比 平 方 根		1.000		0.788		0.865		0.684		0.862	

アイテム カテゴリー		形容詞対		奇抜な		派手な		おとなしい		好感がもてる	
		大人っぽい	子供っぽい	奇抜	平凡	派手	手味	おとなしい	荒々しい	好感がもてる	好感がもてない
		ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関	ウエイト	レンジ 偏相関
人物	①	-0.102	0.204	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	-0.026	0.052
	②	0.102	0.130	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.026	0.037
ポーズ	A	-0.533	1.270	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	-0.209	0.391
	B	-0.025		0.000		0.000		0.000		-0.078	
	C	-0.025		0.000		0.000		0.000		0.182	
	D	-0.152		0.000		0.000		0.000		0.052	
	E	0.737	0.470	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.052	0.184
服装色	a	-0.787	1.651	1.225	2.041	1.225	2.041	1.225	2.041	-0.860	2.606
	b	0.356		-0.816		-0.816		-0.816		0.339	
	c	-0.787		1.225		1.225		1.225		-0.860	
	d	0.864		-0.816		-0.816		-0.816		0.313	
	e	0.356	0.653	-0.816	1.000	-0.816	1.000	-0.816	1.000	1.746	0.809
ボトム	スカート	-0.610	1.220	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	-0.182	0.364
	パンツ	0.610	0.618	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.182	0.249
相 関 比		0.624		1.000		1.000		1.000		0.666	
相 関 比 平 方 根		0.790		1.000		1.000		1.000		0.816	

の影響も大きく、フレアスカートを「子供っぽい」、パンツスタイルを「大人っぽい」と評価している。また、ポーズの偏相関係数も0.470とやや高く、Aの直立姿勢が最も「子供っぽい」に、Eの右手を下げ左手を腰に置いたポーズが「大人っぽい」に大きく寄与しているといえる。

「奇抜な—平凡な」「派手な—地味な」「おとなしい—荒々しい」については「やさしい—きつい」と同様、服装色の偏相関係数が1.00を示し、その他のアイテムは全く影響しないといえる。

また、「好感がもてる—好感がもてない」についても服装色の影響が最も大きく、他のアイテムの影響はわずかであり、服装色については、レンジの値からeのトップがうすい青、ボトムが暗い青の同系色相の低彩度の組み合わせが「好感がもてる」と評価されている。

以上、数量化Ⅱ類の結果、どのようなポーズをとるかによって与えるイメージはかなり異なることが明らかになったので、今後ポーズの異なる着写などを用いる実験においては配慮が必要であるといえる。

要 約

被服が対人認知に及ぼす要因として、これまで着装者、服装色および形態について取り上げ、検討を行ってきたが、今回はこれらの要因にポーズの影響を加えて実験を行った。

実験は、個性の異なる2名の被験者に同じ服装を着用させ、種々のポーズをとることにより与えるイメージがどのように変化するかについてSD法を用いた官能検査を行い、因子分析、数量化Ⅱ類などの手法により着写イメージに關与する要因について検討した。

その結果、因子分析により本実験で用いた対人認知についてのイメージは、大人っぽさの因子と性別に關する因子の2因子が抽出された。また、数量化Ⅱ類の結果より、着写評価に關与する要因の中では、服装色の影響が最も大きいといえる。しかし「積極的な—消極的な」「陽気な—陰気な」「上品な—下品な」などの形容詞対については、ポーズの影響も大きく、さらに、高彩度色の配色を除けば、どのようなポーズをとるかによって人に与えるイメージが大きく変わることが明らかになった。

文 献

- 1) 石原久代；家庭科教育，68，10，68～72（1994）
- 2) 石原久代，鈴木妃美子；名古屋女子大学紀要，41，37～44（1995）
- 3) 岩下豊彦；SD法によるイメージの測定，川島書店（1983）
- 4) 石原久代，鈴木妃美子；名古屋女子大学紀要，42，11～20（1996）
- 5) 石原久代，横山寿子，酒井清子；日本繊維製品消費科学会1995年年次大会発表要旨集，112～113（1995）
- 6) 林知己夫；データ解析の考え方，東洋経済新聞社（1977）